

2026年度日系社会研修（多文化共生推進/日系協力型）日系サポーター コース概要

No	7
所管センター	中部
分野	教育
研修コース名	地域日本語指導と子どもの言語教育
受入人数	1
受入時期	上半期
来日日	2026年7月15日（水）
帰国日	2027年2月27日（土）
提案団体	特定非営利活動法人可児市国際交流協会
提案団体 ウェブサイトアドレス	http://frevia.nows.jp/
研修員必要資格	【望ましい】 ・日本語指導含め言語習得に関心がある ・ブラジル日系社会に関する活動歴がある
研修員に必要な実務経験年数	実務経験1年以上
研修使用言語	ポルトガル語、日本語
日本語能力 （JLPT目安）	N3
ポルトガル語 スペイン語能力	ポルトガル語（母語）
研修目標	・可児市及びその周辺地域の日本語教育の現状を知り「地域日本語教育」について学ぶ ・こどもの日本語指導について学ぶ（教科の日本語について理解する） ・ブラジルコミュニティと交流し日本における母語継承語について把握し考察する
期待される成果 （習得する技術）	・日本における地域日本語教室の実施方法を習得する ・子どもの日本語指導方法を理解し、実践する ・日本における母語、継承語について理解し指導法を学ぶ ・日本のブラジルコミュニティや地域コミュニティとの交流を通じ、ブラジルを知らない子どもや若者にブラジルの現状を伝えることができる。帰国後、来日するブラジル人に日本の現状を教えることができる
研修計画（内容）	講義：可児市及び近隣地域の多文化共生について 岐阜県の地域日本語指導の現状と取り組みについて 教育現場における外国にルーツを持つ子どもの対応などについて 見学：行政の窓口対応や子どもの支援の現状 可児市等の初期指導教室や公立小中学校の取り組み、特別支援学校の見学 ブラジル人学校の見学、地域コミュニティのNPOの活動、日本語教室 実践：日本語教室での研修 学校や、学校外での子どもの指導の実践 報告など：学校でブラジル文化紹介、ブラジルと日本の違いなどについて児童生徒や教職員との意見交換、実践報告会を行う
研修実施の背景／日本国内の中南米出身者のコミュニティにおける現状、多文化共生等課題解決を推進するにあたっての問題・現状等	可児市は、人口の約9％が外国人住民であるが、ブラジル、フィリピンの日系人が中心でその2か国で80％を占める。来日して30年を超える人も多く、第2世代、第3世代となってきた。通訳の配置や派遣会社の対応もあり、日本語習得に重きを置かない人も多い。家庭での言語は、母語であり、継承語という現状もある。 母語、継承語の尊重による子どもたちへの影響として「思考」が挙げられる。子どもが持っている複数の言語を強めることでその子の可能性は広がっていく。 課題は、教育の分野では母語、継承語の維持や日本語の習得という多言語の中で育つ子どもたちへの理解と「学習保障」における母語、継承語の重要性の認識を広めること。今後、さらに多国籍化は進むと思われるが、日本語指導と母語維持、子どもへの母語継承は課題となり、地域課題も、在日年数の長くなった日系ブラジル人への取り組みが事例として参考になると考える。
本研修実施の意義 応募者への裨益効果	地域日本語指導について学ぶことができる 日本の学校教育の場での子どもの日本語指導や学習指導を学ぶことができる 学校外での外国につながる子どもへの日本語や学習指導を学ぶことができる 日本での特別支援の現状を知ることができる 可児市や近隣地域の多文化共生の取り組みを学ぶことができる 当団体は、どちらかというと女性が多く活躍しており、男女を問わずエンパワメントできる
期待される国内の中南米出身者のコミュニティへの貢献（活動）	・コミュニティに向け情報発信ができること ・ブラジルを知らない日系ブラジル人子弟にブラジルの言葉や文化を伝えることができる ・日本における日系コミュニティの現状を帰国後発信できる
応募希望者への特記事項	日系ブラジル人の職員が2名おりますので、言語面でもサポートができます。長期になりますが、ぜひ応募いただきたいです。